

FREE

ご自由にお持ちください。

No.802
2020 July

7

岐阜県の森林・林業

もり
森林のたより

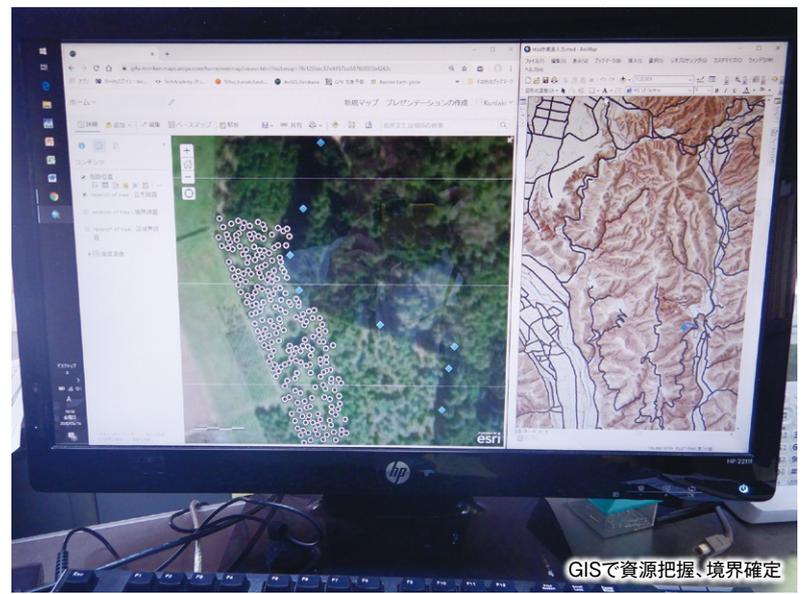


News of the forest

「スマート林業」の推進！



ドローンによる苗木等運搬



GISで資源把握、境界確定



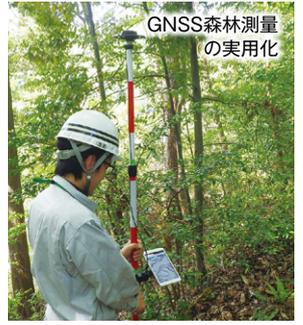
ラジコンで下刈り



林業用アシストスーツ



携帯圏外でも通信可能に



GNSS森林測量
の実用化

●詳細は2ページをご覧ください。



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
8月6日(木)	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30~17:00 ●申込：7/2~7/16 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 各地域を所管する県事務所、 または環境企画課 (058-272-1111 内線 2701)
8月6日(木)	第9回 緑豊かな清流の国ぎぶ づくり県民フォーラム	「清流の国ぎぶ森林・環境税」を活用した事例を県民の皆さまに紹介します。 ●参加料：無料 ●事前申し込み：要	岐阜県図書館 多目的ホール (岐阜市宇佐 4-2-1) 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL:058-272-8472
8月22日(土)~ 8月23日(日)	森林文化アカデミー オープンキャンパス	岐阜県立森林文化アカデミーは、林業、森林環境教育、木造建築、木工の分野で活躍できる人材を育成している専修学校です。入学を検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催します。 ●程日：8月22日(土)、8月23日(日) ●時間：10時から16時まで ●内容：学校紹介、教員との面談、在学生との交流、入試過去問の配布等 ●参加費：無料	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL https://www.forest.ac.jp
9月19日(土)	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30~17:00 ●申込：8/14~8/28 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	岐阜大学全学共通教育講義棟 (岐阜市柳戸 1-1) 各地域を所管する県事務所、 または環境企画課 (058-272-1111 内線 2701)



目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2

100年の森林づくり計画(森林配置計画)の策定状況について 3

ぎぶ木育ひろは地域支援拠点 3

ぎぶ木育の地域への普及・推進を担う施設をご紹介します 3

山の歳時記(179) クスノキII 4

森林と人を活かす知恵(90) 配信動画で授業をする 5

保安林における制限(立木の伐採の制限) 6

台風シーズンに向けて 6

緑化功労者表彰状、緑の募金感謝状をお贈りしました 7

2020(令和2)年度 山地災害防止標語及び写真コンクール 7

木の香るぎぶの施設(88) 大垣市役所庁舎 8

シリーズ「森林・環境税」で「緑豊かな清流の国ぎぶづくり」(3) 9

山のおしなま(348) パンを食べた、カマキリ 10

治山・林道研究課題 「治山事業PRについて」 11

研究コーナー 11

樹木に使用できる農薬を増やすための取り組み 12

地域の「人」ジビエを取り入れた家庭料理の普及を目指して 13

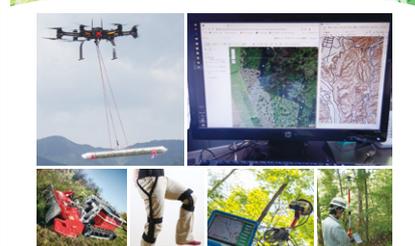
普及コーナー キノコ生産振興に向けて 14

スマート林業通信(1) 下刈りに使える空調服 15

国有林の現場から(45) 民国連携の取組について 16

林業者向けお知らせ 17

市況 18



表紙●4月から県庁森林整備課と森林文化アカデミーに「スマート林業推進係」が新設され、林業の新技術の紹介や研修等を行っています。

100年の森林づくり計画(森林配置計画)の策定状況について

現在、第3期岐阜県森林づくり基本計画において、望ましい森林配置への誘導や人工林の齢級構成の平準化を目指す「100年先の森林づくり」に取り組んでいます。

100年先の森林づくりの基盤となるのは、「100年の森林づくり計画(森林配置計画)」です。その計画の策定にあたっては、市町村ごとに地域検討会(写真1)を開催し、関係者の意見を十分踏まえたくうえで策定することとしています。令和元年度で3年を経過し、県下累計で約66.5万ha(地域森林計画対象民有林の約97.3%)の森林について、「木材生産林」または「環境保全林」に区分されることに対する合意形成が図られました(図1)。

このように県内の森林を2つに区分し、目標を明確にすることで、今後それぞれの目標を達成するための施策がより効率的・効果的に実施できるようになります。また、2つの区分に重複して、観光道路から眺望でき景観的価値が高い森林を「観光景観林」、集落や生活道路に隣接し住民生活を守るための森林を「生活保全林」として設定し、地域の特色や実情に合わせた「100年の森林づくり計画」も順次策定されています。

「100年の森林づくり計画」は令和3年度末までに策定することとしています。また、必要に応じて変更できることにもなっています。より望ましい計画となるよう、各市町村の地域検討会で議論を進めていきます。

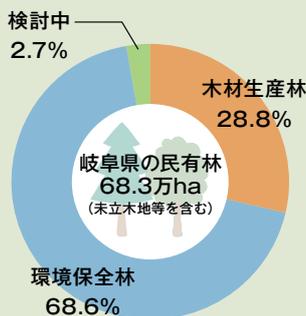


図1 森林区分の合意形成の状況
※構成比は四捨五入しているため合計しても100とはならない



写真1 地域検討会の様子(中津川市)

【林政課 鷲見 勇貴】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3027) 100年の森づくり推進室 森林企画係まで



ぎふ木育ひろば地域支援拠点

～ぎふ木育の地域への普及・推進を担う施設をご紹介します～



多くの皆さんが身近に「ぎふ木育」を体験することのできる拠点として、岐阜県内各地の児童館、図書館、子育て支援センター等の地域に開放された施設に、ぎふの木のおもちゃや家具等を備えた常設の「ぎふ木育ひろば」を設置しています。(令和2年3月末現在: 101施設)

さらに平成30年度からは、「ぎふ木育ひろば」認定施設の中から、地域への「ぎふ木育」の普及推進を担う施設を「地域支援拠点」として、これまでに2施設を認定しました。「地域支援拠点」は、専従スタッフが常駐するほか、地域に「ぎふ木育」を普及推進するための木育イベントを多数開催しています。

ぎふ木育ひろば地域支援拠点のご紹介

1 子ども家庭支援センター「ラ・ルーラ」
【平成30年度認定】

所在地: 〒504-0837
各務原市那加蛸田町30番地1
(中部学院大学 各務原キャンパス内)

木育スペース: 130㎡
専従スタッフ: 2名(催しに応じ5名)



2 子育てはうす ぱすてる
【令和元年度認定】

所在地: 〒501-0532
揖斐郡大野町大字下磯313番地2
(道の駅パレットピアおおの内)

木育スペース: 133㎡
専従スタッフ: 4名



「地域支援拠点」については、今後も引き続き認定を進め、「ぎふ木育」のさらなる地域への普及推進を目指していきます。ぜひ、みなさまもお近くの「ぎふ木育ひろば」を訪れてみてください。

常設版「ぎふ木育ひろば」

検索

【恵みの森づくり推進課 根尾 淳也】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3035) 恵みの森づくり推進課木育推進係まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

前回に引き続き、今回もクスノキの話をお願いします。

日本における樟脳生産の歴史は、江戸時代の元禄年間（1700年頃）に東南アジアを経て琉球（沖縄）から伝来し、明治時代に最盛期を迎えたのですが、1920年代に合成樟脳を製造する技術が開発され、徐々に衰退しました。

樟脳からセルロイドを生産するのが盛んだった明治〜昭和の始め

頃は、日本専売公社の専売品とされるほどの産業で、当時は日本が世界一の生産量を誇り、昭和元年には佐賀県内だけで100トンもの樟脳を生産していました。

樟脳はクスノキの根や枝を水蒸気蒸留などして得られ、防虫剤や医薬品、香料、防臭剤など多方面に利用されました。福岡県で天然樟脳を生産している会社によると、クスノキ原木20トンから一週間で約25kgの樟脳が採れるそうです。

樟脳と言え、私は「カンフル注射」と呼ばれた薬を思い出し、す。樟脳には中枢神経を刺激し血管を収縮させる作用があり、これを昇華精製して得られるd-カンフルは心臓の働きを活発にして、血圧を上昇させる医薬品として利用されました。「トク〇〇エース」とか「メンソレー〇〇」といった製品には、「d-カンフル」と記されています。

クスノキは長寿で成長が良く巨

木になり、材質が滑らかで刃物の当たりが良く、逆目もたちづらく、加工が容易で防腐・防虫など耐久性が強いという特長があるため、古くは木彫仏に重宝されました。

『日本書紀』巻十九には「欽明天皇十四年（553年）茅渟の海に浮かぶ樟木を得て、その材で彫刻した」という意味が記されています。おそらく当時、伝来した北魏あるいは南梁の仏像の中に、南方産の香木で彫られた木彫仏が含まれていたのではないのでしょうか。百済から来た工人たちが、白檀などのいわゆる檀木に似た香木用材を日本で探すとしたら、クスノキを選ぶのは自然の成り行きです。

飛鳥時代につくられた木彫仏の多くはクスノキでしたが、奈良時代に入ると仏像は金銅仏が主体となり、木彫仏の材質もヒノキ主体に変化しました。また、貴族文化を反映して伎楽面も広葉樹のクスノキやホオノキ、キリから、針葉

樹のヒノキへと変っていききました。

比較的身近に見られるクスノキ利用は、お寺などで見られる木魚で、クスノキでつくった木魚はまろやかにこもった音を発する最上品とされ心に響き渡ります。

他にも世界遺産である広島県宮島厳島神社の海中に建立された鳥居や、日本建築に用いる欄間で有名な富山県の井波彫刻などに利用されています。



▲広島県宮島厳島神社の海中に建立された鳥居

緊急事態宣言下で

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により、学校での授業ができなくなり、いつ再開されるか見通せない状況が続きました。そこで森林文化アカデミーでも遠隔授業をはじめることになりました。各教員が、自分の専門分野を語る授業があるのですが、試行的に動画配信をすることになりました。

ようこそ、木材の世界へ

私の専門分野は木材利用です。木材について2つの話題を用意しました。

まず木材とは何か。草の茎と樹木の幹とは何が違うのか。どのように成長し、どのような仕組みをもっているのか。中学校でも高校でも授業で木材の発生についてあまり触れられていないようなので、生物として見た木材を話してみようと思いました。

配信動画で授業をする……

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 吉野 安里

もうひとつは、社会の状況と林業・木材産業の状況です。戦前から戦後は、森林の酷使、木材不足と粗悪品の横行。高度成長時代は、外国産の木材への依存、ヒトと森林のつながりの低下、放置森林の荒廃化。近年の、国産材合板、木質バイオマス発電、住宅着工数、海外への木材輸出の動き。そして、現在は、川上と川中と川下の連携が林業のテーマになっていて、川のどこかに軸足を置いて全体を俯瞰できる人が求められていますよ……ということをお伝えしたいと思います。

以上で話の骨組みはできたので、さっそく動画撮影です。

無観客試合？

授業も講演も学会発表も生き物です。受け手の反応を感じ、質疑応答のやりとりがあります。動画撮影では聞き手の反応が全くありません。無観客試合とはこういうことなのか。

自分の動画を見ると、どのような話し方をしているのかがよくわかります。説明を丁寧に、誤解をまねかないようにと、安全第一に徹した話し方になっていて、表情が硬く、逸話もぎこちない。話のリズム感が乏しく、活舌も悪い。あまり魅力がありません。

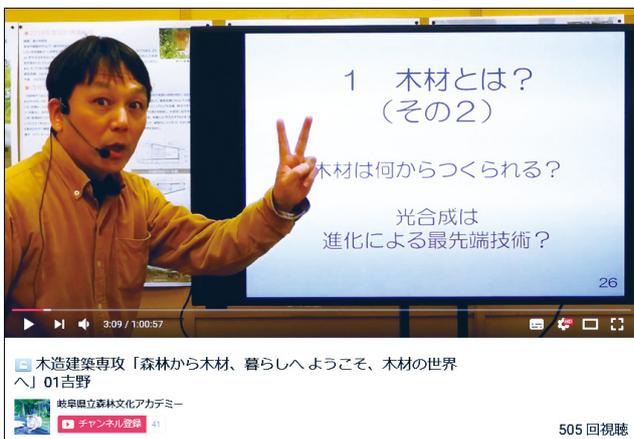
本当に聴衆はいないのか？

あるアメリカ人のラジオパーソナリティが語っていました。「自分の目の前に、相手がひとりいると想像し、その人に温かい気持ちで語り掛ける。多くの聴衆が、自分に直接語りかけてくると感じてもらえなければ、うまくいっている。語り手と聞き手が対一であることが大切である」と……なるほど、私も挑戦してみます。みんな家の中に閉じこもった状況にいます。少しでも、面白さや、考えるきっかけになるように、意識して、見えない聞き手に語りかけてみました。さて、少

しは改善できたのでしょうか。

学校再開へ

六〇分の長い動画になりましたが、好きな時に視聴し、休むことも、繰り返すことも、早送りもできます。本当に何回も見ていただけました。学びや知識の欲求に対して満たされたい、知的飢餓状態にあったのでしよう。学校が再開されたら、それぞれ専門の授業で掘り下げた内容を学ぶことができます。考えたり、調べたり、行動するきっかけとなれば、私の動画は成功ですね。



保安林における制限

～立木の伐採の制限～

必ず事前の手続きが必要です

保安林は、森林の機能を維持増進するために、森林整備には高率の補助制度が適用されるほか、県が治山事業として実施することがあります。

一方、立木の伐採方法や植栽方法など森林内での行為には制限や義務が課せられており、内容に応じて税制上の優遇措置がされています。

今回は、立木の伐採の制限について説明します。

伐採の制限について

伐採方法	手続き	手続期間	提出先	
禁伐	伐採は禁止	—	—	
主伐	択伐	天然林は許可が必要	伐採を開始する日の30日前までに申請	県農林事務所
		人工林は届出が必要	伐採を開始する日の90日から20日前までに届出	県農林事務所
	皆伐	許可が必要	皆伐限度面積の公表の日(年4回)から30日以内に申請	県農林事務所
間伐	届出が必要	伐採を開始する日の90日から20日前までに届出	市町村	

注意事項

- (1) 主伐(択伐・皆伐)は、市町村森林整備計画で定める標準伐期齢に満たない立木は伐採できません。
- (2) 皆伐限度面積の公表の日は、2月1日、6月1日、9月1日、12月1日(土日を除く。)の年4回です。
- (3) 間伐は、樹冠疎密度(林地面積に対する立木の樹冠投影面積との比率)が80%に達していない森林では行うことはできません。

伐採をする場合は、許可又は届出など事前の手続きが必要です。また、皆伐を行う場合は、伐採現場に伐採旗の設置が必要となります。詳細は、県農林事務所にお問い合わせください。

【治山課 吉田達也】

台風シーズンに向けて

今年も台風シーズンが目前にせまっています。近年、全国各地で大型台風や集中豪雨等による甚大な被害が発生しております。岐阜県においても、平成30年に発生した7月豪雨災害が記憶に新しいところです。

このような被害を軽減するため、県では、地形や地質などからみて山くずれや土石流の危険度が高く、人家などに直接被害を与える箇所を山地災害危険地区として、重点的に治山事業を進めています。

加えて、災害による人的被害をなくすためには、自分の身は自分で守るという自助や共助の取組が重要です。台風の進路に注意し、最新の気象情報・避難情報をテレビやインターネットにより取得し、早目の避難行動をとるように心がけましょう。

台風シーズンを前に、ぜひ自宅周辺などの山地災害危険地区や避難所を確認してみてください。

山地災害危険地区の位置は、県域統合型GISからご覧になれます。

(<https://gis-gifu.jp/gifu/portal/index.html> より、「山地災害危険地区」で検索)



【治山課 清水 大爾】

緑化功労者表彰状、緑の募金感謝状をお贈りしました

公益社団法人岐阜県緑化推進委員会では、次の方々に緑化功労者岐阜県緑化推進委員会会長表彰状並びに緑の募金感謝状をお贈りしました。(敬称略)

緑化功労者岐阜県緑化推進委員会会長表彰(令和元年度)

●個人:星屋 隆茂(下呂市)

●団体:明宝山里研究会
会長 松山 誠美(郡上市)

緑の募金感謝状(平成31年1月から令和元年12月までに10万円以上の寄附)

- 株式会社平和堂(滋賀県彦根市)
- ダイドードリンコ株式会社(大阪府大阪市)
- 岐阜トヨペット株式会社(岐南町)
- 西濃緑化推進協議会(大垣市)

※株式会社平和堂へは、公益社団法人国土緑化推進機構理事長からの感謝状も併せてお渡ししました。

例年ですと、定時総会の席上で会長(森 正弘県議会議長)からお渡しするはずでしたが、新型コロナウイルス感染症対策により総会が開けないため、ご紹介のみとさせていただきます。

表彰を受けられた皆様には、これからも地域の森林づくりや緑化活動に益々活躍されますとともに、緑の募金にご協力をよろしくお願いいたします。

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司】

2020(令和2)年度/

山地災害防止 標語及び写真コンクール

林野庁、県及び市町村が一体となって実施している山地災害防止キャンペーン(5月20日~6月30日)の関連行事として、「山地災害防止 標語及び写真コンクール」が、一般社団法人日本治山治水協会の主催で実施されています。

今年度も6月から9月まで、山地災害防止に係る標語と写真作品を募集しています。(締切9月30日(水)当日消印有効)

毎年作成される山地災害防止キャンペーンポスターは、このコンクールで最優秀賞に選ばれた作品が採用されることもあります。

多くの方からの応募をお待ちしています。



令和2年度 山地災害防止キャンペーン
2020年5月20日(水)~6月30日(水)
林野庁、岐阜県、岐阜市、岐阜県治山治水協会
主催 (一社)日本治山治水協会
令和2年度
山地災害防止キャンペーンポスター

【標語及び写真コンクールの応募先及び問い合わせ先】

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル4階
(一社)日本治山治水協会 標語・写真コンクール係 TEL:03-3581-2288、FAX:03-3581-1410

【治山課 清水 大爾】

大垣市役所庁舎

大垣市丸の内2丁目29番地



施設全景

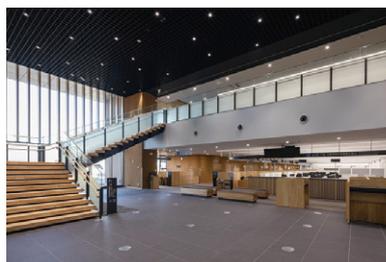
施設概要

事業年度	令和元年度（当該補助事業実施年度）
事業主体	大垣市
階数・構造 延床面積	地上8階・鉄骨造（免震構造） 20,369.83㎡
施設用途	庁舎
木材使用量 使用樹種	31.485㎡ ヒノキ・スギ（県産材100%）
全体事業費	7,182,000千円（建築主体工事のみ）
助成額	5,136千円 （県産材需要拡大施設等整備事業）
設計者	山下・車戸設計共同企業体
施工業者	岐建・TSUCHIYA特定建設工事共同企業体
工期	平成29年12月19日～令和3年1月29日 （令和元年10月31日 新庁舎本体完成）

施設の経緯

大垣市役所旧本庁舎は、昭和39年に竣工し、老朽化や耐震化の問題、分庁舎方式による利便性の問題などから、平成24年に新庁舎建設推進本部を設置し、新庁舎を建設することとしました。

新庁舎は、免震構造を採用するとともに、1階床高を周辺地盤より1m程度高くするなどして、地震や水害など、あらゆる災害において防災拠点としての機能を維持し続け、市民の安全・安心を守る「自立型庁舎」としています。



市民ロビー（1階）



待合（1階）

ここに注目！！

内装の木質化はもとより、机や椅子、パンフレットラックなどの備品も木材（県産材）を使用することで、温かみのある空間となっています。

利用者の様子

「城下町・大垣」の雰囲気を醸し出す落ち着いた和風のデザインや色彩を取り入れ、内装木質化などにより、来庁された方に心地よく、ご利用いただいています。



議場及び傍聴席（7・8階）

■問い合わせ先
大垣市役所 契約課
TEL 0584-47-7439

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

3

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

水源林公有林化支援事業

～水源地域における市町村の森林取得を支援します～

■事業概要

県では、清流を後世に残すとともに、生活に必要な水を確保するため、市町村の水道水源周辺の森林を「水源地域」として指定しています。水源地域の森林は、森林が持つ様々な働きが機能するよう適切に管理する必要があります。しかし近年、所有者の不在村化、高齢化などにより、長い間放置されたままの森林が見受けられます。こうした荒廃のおそれのある水源林を保全するため、市町村が水源林を取得する経費を助成しています。

■補助概要

対 象：市町村が水源地域内の森林（1ha以上）を取得する経費

補助率：10/10又は1/2



■令和元年度 実施事業の例

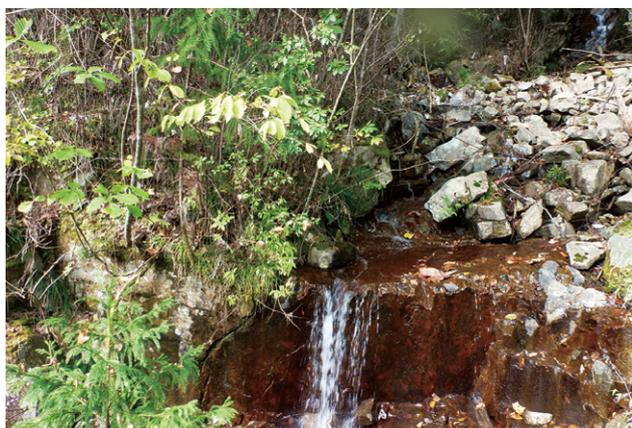
●事業主体：東白川村

●取得面積：3.35ha ●事業費：1,316千円

取得した森林は、東白川村の約48%の村民に水道水を供給している曲坂水源の上流約2.3kmにある村有林に隣接した森林です。所有者の高齢化により管理が難しくなったことから、村が一体的な管理を行い水源の保全を図っていきます。



取得した森林



森林内の谷水



下流の取水施設

■今後の取組み

この事業により、これまで4市町村が、約123haの森林を取得しています。多くの市町村での活用をご検討ください。

【治山課 木村 等】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8496 治山課水源林保全係まで



山のおじまむし



パンを食べた、カマキリー【第348回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

カマキリー。この虫は誰でも知っているであろう。棘のある前足。これで威嚇する姿。一度目には忘れることができない。数年前の夏、我が家の庭にオオカマキリー（以下、カマキリー）がいた。見つけたのは孫のY君。小学1年生だ。捕まえようとした。するとカマキリーは足を広げて威嚇してきた。Y君は手が出なかった。しかし、興味があるのかいつまでも見ていた。私はY君とこのカマキリーを飼うことにした。数日後、モンシロチョウを飛ばないようにして入れた。しばらくしたら「つかまえた!」とY君の大きな声。前足でモンシロチョウを捕まえていた。この後、妹のちびちゃん（保育園児）二人も加わり、3人で餌を与えた。しばらくしてカマキリー2匹を追加した。ちびちゃんたちが餌を与える。それを食べるカマキリー。これを楽しそうに眺めていた。ある日、姉のちびちゃんが「カマキリーが食べられている」と私を呼びに来た。大きなメスがオスを食べていたのである。Y君も驚き、いつまでも見つめていた。しかし、9月半ばに残りの2匹も死んでしまい、この年のカマキリーの飼育は終わった。来年はもっと大きな飼育箱で飼おうと思った。

× × × ×

しかし、Y君はカマキリーを飼うことはなかった。クワガタムシに魅力を感じたからである。そこでオオクワガタを飼い始めた。次々と大きな成虫が発生した。中には6cmを超えるオスもいて、Y君は大喜びであった。しかし、これも興味が薄れていった。虫が好きでは仲間外しにされるからである。代わりに、ゲーム、パズルに夢中になり、友達も増えていった。これが今の子供か。と自分が昆虫少年だった頃を思い出し、さみしくなった。それが今年の3月、再びカマキリーを飼うことになった。原因は新型コロナウイルス（以下、コロナ）である。2月頃から各地で死者が増え続けたので、学校が長期休校になった。しかも、この間は自宅で過ごせという。Y君は大喜び。二人のちびちゃんと好きなゲームやパズルを楽しんでいた。しかし、そのうちに飽きて、庭にいる虫やダンゴムシなどを探し始めた。3月12日、Y君がカマキリーの卵が入っている卵鞘（らんしょう）を見つけた。この中から、たくさんのカマキリーが出てくることを説明した。しかし、よく理解できないようであった。そこでこの卵鞘を飼育箱にいれ、様子を見ることにした。

× × × ×

3月17日、「おじいちゃん、カマキリーの子供がたくさんいる」と姉のちびちゃん。飼育箱の中には孵化したばかりのカマキリー。ものすごい数だ。私自身、目にするのは初めてであった。何匹いるのだろうと数え始めた。しかし、動き回るのでわからない。200匹以上はいると思われた。まず、餌を与えなければならぬ。

カマキリーは肉食性で、昆虫などを食べている。餌探しをした。しかし、捕れない。1週間経過した。しかし、カマキリーは生きています。共食いをしているのだろうと思った。さらに数日後、妹のちびちゃんが「おじいちゃん、カマキリーが肉まんを食べているよ」と知らせに来た。飼育箱を見ると、肉まんにカマキリーが6匹止まっていたのである。肉まんは妹のちびちゃんが「カマキリーは何も食べていない。かわいそう」といったので姉のちびちゃんが、自分の食べていた肉まんを入れたとのことであった。カマキリーは空腹になれば何でも食べる。そんな気がしたので、肉まんの代わりに食パンの上にヨーグルトをのせて与えた。カマキリーも水分を必要とすると思ったからである。するとカマキリーはパンにもヨーグルトにも集まってきた。自分では思いもつかない、ちびちゃんのこの発想。そのお陰でカマキリーの飼育が続けられたのである。



▲孵化したばかりのカマキリーの子供

× × × ×

4月5日、思いもしないことが起きた。今のカマキリーが孵化した卵鞘を別の容器に入れていたら、ここから再びカマキリーが孵化してきたのである。その数300匹以上。前回と合わせると、この小さな卵鞘から500匹以上のカマキリーが生まれてきたことになる。しかし、成虫はそんなに多くない。これは肉食性のカマキリーも成長過程でほとんどが外敵にやられるので、たくさん卵を産む。その道具として考えたのが卵鞘。獰猛なカマキリーも厳しい自然界を生きているのだと思った。小さなカマキリーは動きが実に素早い。蓋をあけるとすぐに逃げ出す。世話が大変なので、後で発生したかまきりは庭に放した。飼育箱にパンを入れると集まってくる。食べていることは間違いない。しかし、死亡しているのがよく見られるようになってきた。やはり虫などの餌が必要だと思った。そこでハエ、 TENTUUMシ、カメムシなどを与えたが食べない。大きすぎるのである。小さな力やコバエなどが必要なのだ。しかし、たくさん採るのは難しい。ほかの餌を必死に探した。ようやく見つけた。レンゲに寄生するアブラムシの幼虫だ。茎の先端に集団でいるので捕るのは簡単だ。これを与えると前足で器用につかまえて食べている。ちびちゃんたちは「また食べた」と楽しそうに見ている。4月下旬、大きさが1.5cmになった。成虫になるのは夏。まだまだ先だ。これからも、ちびちゃんたちと見ていくつもりだ。



治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

治山事業PRについて

揖斐農林事務所 堀部 一希

はじめに

治山事業は砂防事業と混同されている場合が多く、一般的にはあまり認知されていません。そこで、この一年間で地元住民や若い世代の方に治山事業を理解していただくためにPR活動を行いました。

PR活動の概要

今回行った活動は、2つの小学校と地元住民を対象にした室内での説明会座学と屋外での見学や体験です。



地元住民への説明

説明会では、言葉や資料だけでなく、ドローンで空撮した動画や実際の災害を記録した映像を流したり、クイズや質問等による対話形式で行いました。



▲治山施設の説明



▼重機体験

見学、体験では、施工業者にも協力していただき、現場で実際に使用している器具や重機の操作を体験してもらいました。実際に構造物に触れてもらい、どんな目的でどのように作られたのかを説明しました。

PR活動の効果

今回行ったPR活動には様々な効果がありました。地元住民への説明会では、実際に地元で実施した工事を知っていたことで治山工事に対する理解が深まりました。また、小学生に対しては対話形式にしたことで積極的にコミュニケーションをとることができ、児童からは様々な質問をいただきました。



小学校での質疑応答

見学、体験では、小学生は治山施設に触れるのは初めてのことで、とても興味津々の様子でした。工事で使用されている器具や重機の体験の際も我先にと、とても積極的な姿勢が見られました。



測量機器の体験

今後の改善点

今回のPR活動で2つの改善点が見つかりました。1つ目は、治山と砂防の違いを理解していただくことが難しく、多くの方が同じものだと思われていたことです。そこで今後は、治山と砂防の違いというところに重きを置き、より分かりやすいPRをしていこうと考えています。2つ目は、現場体験が一般的な土木工事のPRの様になってしまった所があったことです。治山の特徴的な面がより伝わる工夫が必要と感じました。

まとめ

今回のPR活動を通して、よかった点と改善点が見つかったので、今後はさらに工夫を重ね、より良いPR方法を模索したいと考えています。

今回は2つの小学校と地元住民を対象に活動しましたが、今後はさらに幅広い年代の方にPRをしていき、治山事業の活性化につながるよう活動を続けていこうと思います。

最後に、今回の活動に協力していただいた、施工業者の方々、学校の先生方、地元自治会の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

詳しい内容を知りたい方は

TEL 0585-231-1111



揖斐農林事務所まで

樹木に使用できる

農薬を増やすための取り組み

森林研究所 ● 大橋 章博

はじめに

森林研では、毎年、林木や庭木の病虫害についての問い合わせを多くいただきます。しかし、病気や害虫の診断はできて、その対策となると途端に菌切れが悪くなります。それは樹木に使える農薬が少ないからです。平成14年の農薬取締法の改正によって、対象となる植物と害虫の組み合わせが合致する農薬しか使えなくなりました。たとえ使える農薬があっても、ポジティブリスト制度（基準が設定されていない農薬等が一定以上含まれる食品の流通を原則禁止する制度）により、農作物に飛散する恐れがある場所では、樹木への農薬散布は難しくなっています。

取締法の改正からずいぶんと時間が経ちましたが、樹木に使える農薬はそれほど増えていません。農薬会社からみれば、造林木や緑化木は市場全体から見ればマイナーであり、コストがかかる農薬登録には公設試験場で行った

病虫害に対する薬効試験が必要なことから、造林樹種等に対する農薬登録を進めるためには試験場が果たす役割は大きいと考えています。そこで、森林研では農薬会社からの依頼を受けて、農薬の登録拡大に向けた薬効試験を行っています。今回は、その一例を紹介いたします。

サクラの樹幹注入剤

サクラ類には多種の害虫が発生しますが、街中や道路沿いに植栽されていることが多く、農薬散布が難しくなっています。そうした中、樹幹注入処理できるように製剤した薬剤が新たに開発され、2013年にその薬効試験を依頼されました。樹幹注入剤とすることで、農薬の飛散を防ぐことができるので、街路樹や公園、学校など人通りの多い場所でも使用しやすくなります。森林研では、まず、アメリカシロヒトリに対する薬効試験を行いました。試験は、葉が展葉後の4月22日に薬剤を注入し、6月10日（49日後）と

8月6日（106日後）に採取した葉を幼虫に供試して殺虫効果を調べました。その結果、49日後、106日後とも高い殺虫効果が認められました（図1）。岐阜県ではアメリカシロヒトリは年に2回発生しますが、葉を採取した6月中旬、8月上旬は1回目と2回目の幼虫発生時期に一致します。このことから、春1回の処理で当年の発生を抑えることができることがわかりました。こうした結果に基づいて「さくら」の「アメリカシロヒトリ」に対し、2015年2月に新規に農薬登録され、ウッドスターという名称で販売されるようになりました。その後の追加試験により、対象作物が「樹木類」へ、適用害虫が「毛虫類」へ拡大されました。これによって、本薬剤は「さくら」に限らず様々な樹木の毛虫類に使えるようになりました。今では、対象作物

6種、適用害虫6種へ拡大しています。



写真 薬剤の樹幹への注入

さらに、森林研ではヒノキ球果を加害するチャバネアオカメムシに対して、適用拡大を図るべく、本薬剤の薬効試験（昨年の本誌793号で紹介）を継続して行っています。

この薬剤は殺虫効果を発揮する害虫の範囲が広いので、今後も様々な食葉性、吸汁性害虫に対し、殺虫効果が期待できます。

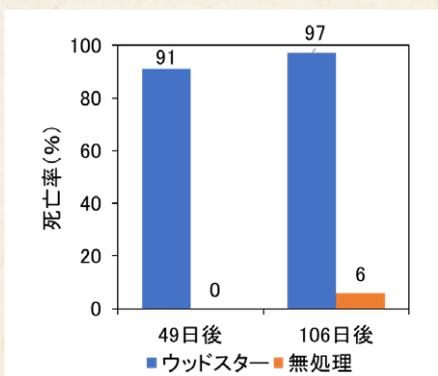


図1 アメリカシロヒトリに対する殺虫効果

おわりに

樹木に使える農薬は、まだ少なく、特に殺菌剤は殺虫剤より深刻です。今後も機会があれば、現場で問題となっている病害虫に農薬が使えるように薬効試験を実施していきたいと考えています。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1033-2588

森林研究所まで



上屋 薫里さん

ジビエを取り入れた家庭料理の普及を目指して

猟師・料理研究家

かみや かおり

上屋 薫里さん

近年、ニホンジカやツキノワグマ等による森林被害が深刻化しており、岐阜県内では約1,000haの被害があります。中でもニホンジカによる被害は、個体数増加や生息区域拡大を背景に、増えており、再造林を進めるうえで防護柵などの獣害対策や個体数を減らすための捕獲・駆除が重要となっています。

そこで、今回は、飛騨猟友会清見支部の一員として定期的にイノシシやニホンジカの捕獲・駆除にあたる女性猟師であり、ジビエ料理の美味しさを普及する活動に取り組んでおられる上屋薫里さんにお話を伺いました。

Q 狩猟のきっかけは？

東京都内の調理師専門学校を卒業後、イタリアンレストランでサービスを担当し、その時にジビエ料理の美味しさや高級な印象を受けました。

高山市に戻り、結婚して子育てをする中で、高山は自然豊かで美味しい農産物が沢山あることを再認識し、「身近な自然の中で採れたものが味わえたら、贅沢だな」と思うようになって来ました。

5年ほど前、自然に寄り添った生活がしたいという想いと狩猟をやることで野生動物の肉が入ることから「わな」免許を取得しました。講師役の先輩たちから、免許を取ったからには、捕りに行ったほうが良いと促され、平成28年に第一種狩猟免許(銃の免許)も取得することとなりました。祖父が猟師だったことから何ら抵抗もなく、家族の理解も得られ、思いがけず猟師になりました。

先輩から狩猟技術のことや自然のことをいろいろ教えてもらい、自然と関わることで面白くなってきました。

Q 家庭でのジビエ料理は？

料理が好きなので、捕ったシカやイノシ

シは週に1回は食卓に並べます。ミートボールパスタやおろしポン酢をのせたハンバーグなどです。子どもにも食べやすいように、個体差のある肉はミンチにして食べやすく調理します。手間を惜しまなければ、とてもおいしい食材です。

家庭で作るジビエ料理を第3回ジビエ料理コンテストに応募したところ農林水産大臣賞を受賞しました。受賞した料理は、子どもたちに人気だったホットプレートで作るビビンバをアレンジした「鹿肉のビビンバ」とスネ肉のスープで、レシピは、家庭で誰でも作れるように身近な食材となっています。

Q 現在の活動は？

捕った命は残さず食べてあげたい。肉本来のうまみを、もっと家庭で味わってもらえるように活動しています。

特にジビエ料理コンテストを機に次のような活動を行っています。

- ・ジビエを使った料理講習会の開催
- ・鹿肉料理フェアの参加
- ・道の駅なもりへ「鹿肉のビビンバ」レシピの提供
- ・小売店でのぎふジビエ試食販売

料理講習会・教室などを開いて、その魅力を伝えていきます。



飛騨フォレストレイズ料理講習会での上屋さん

Q 今後について？

美味しいジビエを広げるためにジビエを取り入れた家庭料理の提案やレシピを考案し、ジビエの正しい理解と魅力を発信、普及させていきたいです。

さらに猟師として駆除のための捕獲から、食べる(消費者へ提供する)ための捕獲という意識改革をしていきたいです。



高山シカ肉料理講習会での上屋さん

● お話を伺って

命を奪う経験を積み重ねるたび、本当の豊かさとは何か、ママさん猟師は考え続けているようです。

駆除だけでなく、捕獲した野生動物の命を大切にその肉を残さず食べるという食育に繋がってきますので、皆さんにもジビエ料理を知り、食べていただければと思います。

【飛騨農林事務所 吉田晃】

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0577-133-1111

飛騨農林事務所まで



キノコ生産振興に向けて



■岐阜県立森林文化アカデミー 今井 和重

はじめに

岐阜県の栽培キノコ類の生産額は約35億円(平成30年 農林水産統計)で、林業産出額の約37%を占めており、山間地域の重要な収入源となっています。

キノコ生産の状況は、産地間競争に加え、安価な輸入菌床の増加などにより、販売価格は下落傾向にあります。また、原発事故の影響で、原木等生産資材の急激な価格高騰など、キノコ生産を取り巻く環境は厳しくなっています。一方で、岐阜県産乾シイタケが「大賞祭」に共納されるなど高い評価を得ています。近年は食に対する消費者の健康・安全志向が高まり、海外からの注目も高まっています。

このような状況から、キノコ生産の一層の振興を図り、岐阜県の特産品としての魅力を構築するため、岐阜県特用林産物の振興方針(キノコ類)を策定しました。策定にあたって、キノコ生産者をはじめ関係者の方々の意見を参考に、林業普及指導員のほか、県庁県産材流通課、森林研究所、森林文化アカデミーの特用林産担当者で検討を重ねました。方針は①キノコ生産量の増加②キノコ生産者の増加③原木生産量の増加を目標に取りまとめましたので紹介します。

原木等生産資材対策

東日本大震災の発生以降、シイタケ原木の最大の供給地であった東北地方からの供給が止まり、全国的に原木不足の状況が続いています(図-1)。これに伴い、原木価格は高騰し、キノコ生産(特に原木シイタケ)の経営コストを押し上げる要因となっています。また、県内では伐採者の高齢化や、原木の大径化が進んだことで、良質な原木の安定供給に支障をきたしています。一方、菌床用オガコは、県内からの調達が可能で、高水準で推移していますが、近年になって県内に大規模な生産施設が整備

されるなど、一部で菌床用材の原木の確保が課題になりつつあります。

これらの状況から、キノコ生産用原木の県内供給量を拡大するため、原木林の造成や、原木生産に必要な技術・コスト等を検証し、普及することとしました。また、県内の森林資源を最大限に活用するため、県産原木等の利用促進、キノコ生産に活用できる樹種の拡大、利用可能な原木林の情報の集約・提供を進める予定です。

生産対策

全国のキノコ生産量は増加傾向にあり、平成10年から平成30年の間に約22%増加しました。岐阜県では、平成28年まで生産量が大きく減少しました。その後、大規模な生産施設の整備などが進み、生産量は増加に転じました。しかし、増加率は全国と比較して依然下回っています。原木シイタケ生産者数は高齢化や後継者不足等により年々減少しており、過去15年間で約60%も減少しました。また、菌床シイタケ生産者数は、原木シイタケと比べ比較的緩やかに減少していますが、特に小・中規模生産者の減少が大きい特徴が見られます。一方で、近年になって大規模生産施設の整備が進み、県内の菌床シイタケ生産の約85%が大規模施設で生産されています。岐阜県のキノコ生産は、生産量・生産者数ともにシイタケの占める割合が高く、平成30年は全生産量の約6割を占めています。しかし、最近になってククラゲの生産量が大きく伸び

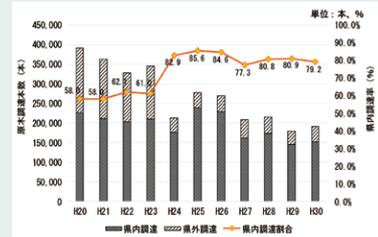


図-1 キノコ用原木の推移

るなど、「新しい品目」の生産が増加しています(図-2)。生産者数の増加に向け、新規参入を促す必要がありますが、初期投資の軽減に加え、新規参入者が安心して生産を開始できるよう技術的なサポートが望まれています。また、既存の生産施設の老朽化が進み、設備の更新や拡充が課題となっています。加えて、近年の異常気象等により、栽培環境が不安定化しており、環境の変化に応じた資材や品種、栽培技術の開発などが求められています。

これらの状況から、参入初期の経営を安定化させるため、生産開始から収穫まで一年以上を要する原木キノコ生産に対し給付金の支援を行います(菌床キノコ栽培は、農業関係の制度で対応しています)。また、新規参入や既存生産者の規模拡大を促進するため、イニシャルコストの軽減に向けた設備投資に対する支援や未利用施設、機械等の活用を促します。その他、キノコ生産量(収穫量)の安定化を図るため、栽培環境の変化や病害虫に対する栽培技術の開発等を進めるとともに、新規参入者や既存生産者への支援を強化します。

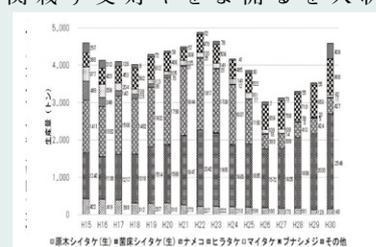


図-2 キノコ類生産量の推移

販売対策

キノコ類の輸入量は、平成13年のセーフガード暫定措置以降大幅に減少し、その後も減少傾向にあります。しかし、シイタケ菌床の輸入量は年々増加しており、平成30年には2万トンを上回りました。菌床の重さの1/3がシイタケの発生量と推定されており、平成30年は全国の生シイタケ流通

量約7万トンの1割が輸入菌床から生産されたものと考えられています(図-3)。これらの影響もあり、国内で流通しているキノコ類の価格は、一部を除いて下落傾向にあり、品目間の価格差も大きくなっています。また、直売所等の整備が進んだことや、大規模生産者の増加などに伴い、出荷形態は多様化しています。

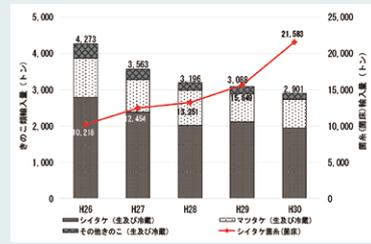


図-3 キノコ類輸入量の推移

況から、新たな販路拡大のため、県産キノコ類のPRを支援するとともに、意欲のある生産者による新商品の開発や、需要者との連携を促す機会を創出することしました。また、海外への輸出を後押しするため、必要な情報の収集や技術の開発を支援します。その他、県産キノコ類の安全性を確保するため、GAPや有機JAS等の認証取得を促進するとともに、輸入キノコ等との差別化を図るためのトレーサビリティ制度について検討します。

生産者への支援対策

岐阜県の特用林産振興体制は、県庁(県産材流通課)、森林文化アカデミー、森林研究所に担当職員を配置しています。また、各農林事務所にも林業普及指導員を配置し、情報収集や窓口業務を行っています。指導体制は十分と言えず、支援窓口も広く認知されていません。加えて、県の特用林産施設の老朽化が進み、施設の仕様などから現場の多様な要望に対応できない状況です。生産者団体は、生産者数の減少等に伴い活動が停滞し、現在では地域ごとに小規

模な団体が散在している状況です。

これらの状況から、生産者の方に安心してキノコ生産に従事してもらえるよう相談・指導の窓口を明確にし、林業普及指導員による支援体制を強化することとしました。具体的には、森林文化アカデミーに、キノコ生産に関する総合窓口「キノコ振興センター(仮称)」を位置づけ、種菌メーカーやJA等の農業関係者、研究機関等との連携を強化します。また、キノコの生産性を向上させるため、気候変動等に対応した栽培技術の開発や改良など、キノコ生産に関する研究・普及の拠点となる「キノコ生産総合支援棟(仮称)」の整備を検討します。生産者等の組織化については、全県的な組織の整備について検討を進める予定です。

終わりに

キノコ生産は中山間地の重要な収入源であるとともに、地域の雇用の場としても大きな役割を担っています。また、キノコ栽培には多くの木材資源が使用されることから、森林資源の循環利用に繋がり、自然環境や里山の保全にも寄与しています。

近年、高齢化が急速に進み、これに伴う生活習慣病の増加など健康への関心が一層高まっています。キノコはカロリーが低くビタミンやミネラル類が豊富です。加えて機能性成分が多く含まれることから、現代人の健康増進に不可欠な食材といえます。岐阜県のキノコ生産を振興することで、所得の向上や地域雇用を創出することにも、みなさんの健康増進にも役立つと考えています。

今回策定した振興方針を確実に実行することで、岐阜県のキノコ産業が一層発展することを期待します。

(詳しくは、岐阜県公式ホームページ(県産材流通課をご覧ください))

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-631-2600

森林文化アカデミーまで

スマート林業通信 ①

下刈りに使える空調服

4月から県庁森林整備課と森林文化アカデミーに「スマート林業推進係」が新設されました。

スマート林業とは何か。日本の森林資源を活用して林業の成長産業化を推進するには、低い労働生産性や高い労働災害率といった林業特有の課題を解決する必要があります。スマート林業ではGISやICT等の先端技術を活用して、生産性や安全性の向上、需要に応じた高度な木材生産を実現し、林業を安全で働きやすく魅力ある職場として、担い手の確保・育成を進めることを目指しています。

森林のたよりでは今号から毎月0.5ページをいただき、林業の新技術の紹介、スマート林業推進係としての取組みや普及内容を紹介していきます。

第1回は、これから本格的な夏を迎えるにあたり下刈りに使える空調服を紹介します。

すでに採用している事業体もあるのですが、夏は熱中症と蜂刺されに特に注意が必要です。空調服は、服に小型ファンが付いていて外気を取り入れて汗を気化させます。発汗量を抑えることで体力の消耗を抑

え、作業効率が上がります。汗がすぐに蒸発するのでアセモができません。服が膨らむので蜂のハリが届きにくく蜂刺され防止になるといいます。木材生産は機械化で作業の効率化が進んでいますが、造林、育林現場は3K作業のままです。空調服で少しでも労働強度の軽減と安全対策につながることを望みます。

空調服を試してみたいという要望がありましたら、アカデミーで試着会等の開催も検討しますので、ご相談ください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-631-2600

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで



写真提供 (株) エヌ・エス・ピー (中津川市)



民国連携の取組について

●はじめに

平成22年に、岐阜県内の森林の持つ多面的機能の持続的発揮及び木材の安定供給等を目的とし、中部森林管理局と岐阜県が連携・協力するため、「覚書」を締結してから、国有林と連携した様々な取組を行ってきました。

今回は、その取組について紹介します。

●森林整備推進協定

岐阜県内の飛騨、岐阜、東濃の森林管理署において、7地域「高山市一色・山中山地域」「東白川村新築地域」「中津川市加子母地区」「下呂市小坂町北東地区」「七宗町上麻生地区」「檜原谷地区」「郡上市白鳥・高鷲地区」の森林整備推進協定を森林・林業関係者と締結しています。

協定地域内では森林共同施業団地を設定し、林内路網の整備や中間土場の設置、木材生産の低コスト化や木材の安定供給を国有林と連携して行っています。

また、毎年会議を開催し、実績・

計画の報告のほか意見交換を行っている地域もあります。



▲森林整備推進協議会運営委員会

●市町村森林管理委員会への参画

各地域の森林官は、主に国有林のある市町村で開かれる市町村森林管理委員会等に参加し、森林経営管理制度や森林環境譲与税の円滑な運用等に向けた助言等を行っています。

●ニホンジカ被害対策

各森林管理署では試験地を設定し、防護柵設置等の実証実験を行っています。

ます。また、「くくり罠」を用いた捕獲にも取り組んでいます。

取組によって得た有効な防除技術については、「ニホンジカ食害防除対策検討会」等を通じて広く関係者に普及しています。



▲センサーカメラによる撮影

●主伐・再造林の普及

林業の成長産業化を図るためには、木材生産能力が高い林業事業体を育成する必要があります。

このため、中部森林管理局では「生産性向上実現プログラム」を開始し、P D C Aサイクルにより生産性が向上できるよう、国有林関係者の協力を得て、作業日報の分析や現地検討会を実施してきました。

また、国有林では、地球温暖化防止対策の一環として、間伐の継続と主伐・再造林による森林資源の若返りにも取り組んでいます。この主伐・再造林においては、森林所有者への

利益還元と供給体制整備の観点から、

伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化の確立を目指しています。

具体的な事業としては、コンテナ苗の有効性の検証や、伐採・搬出方法の検証を行いました。

●ケーススタディ地区

岐阜県では、七宗町上麻生地区の森林共同施業団地が事例研究地区に設定されています。

ここでは、他の地区の模範となる取組や先進的な取組、研修会等を実施しています。令和元年度には、森林技術開発・支援センターが主体となり「獣害対策展示エリア」を設置し、研修会等に活用しました。

●交流人事

民国連携の取組をより強固なものとするため、平成26年度から岐阜県と中部森林管理局で交流人事を行っています。

●おわりに

森林・林業基本計画において、国有林野の管理及び経営に関する施策の1つに「国有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業再生に貢献」があることから、岐阜県内の森林管理署においては、地域の森林・林業の課題解決に向け、より一層民国連携の取組を推進していきたいと考えています。

(岐阜森林管理署)

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
7月15日(水) 7月20日(月)	伐木等機械の 運転業務特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間 15日 学科 9:00～16:00 20日 実技 9:00～16:00 ●申 込:開催日の20日前まで ●受講料:43,260円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)(学科及び実技一部免除者を含む。実技講習は10名単位の開催となりますので実技受講者が10名以上の場合は翌日になりますのでお問合せ下さい。) 	15日 学科 ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 20日 実技 郡上市地内山林 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
7月28日(火)～ 7月31日(金)	フォークリフト 運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転 免許所持者	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間 1日目 学科 8:30～16:30 学科試験 16:30～17:30 2～4日目 実技・試験 8:00～17:30 ●申 込:開催日の20日前まで ●受講料:32,450円(本代含む)(振込み) ●定 員:20名 (定員になり次第締め切ります。) 	学科 伊自良中央公民館(山県市大門912-1) 実技 ぎふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
8月27日(木)～ 8月28日(金)	木材加工用機械 作業主任者 技能講習	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間:27日～28日 8:30～17:40 ●申 込:開催日の20日前まで ●受講料:17,600円(本代含む)(振込み) ●定 員:40名 (定員になり次第締め切ります。) 	JAひだ古城営農センター (飛騨市古川町上野571-1) 林材業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



COLUMN

コラム

中部北陸自然歩道を紹介します。
新型コロナウイルス感染拡大防止のために、各施設の営業休止や
様々なイベントの延期、中止が続いています。外出の自粛を要請され、
残念な思いをしている人も多いと思います。
でも、今は我慢の時。ネットに投稿された「人類を救う道はテレビの前で寝転がる
こと」が話題になっているとか。
さて、中部北陸自然歩道は、新潟県から滋賀県までの中部北陸8県にまたがる旧
街道の北国街道、三国街道、中山道をメインルートとしています。
県内のコースは、御嵩町～白川村(旧益田街道～越中街道)、高山市(木曾街道)、
恵那市～中津川市(中山道)の3ルートを中心に、そのルート毎に1日単位で歩くこ
とができる自然歩道を「1日コース」、歩くことはできますが自然歩道としては適して
いない道を「連絡コース」とに区分けし、11市町村に26の「1日コース」が整備され
ています。
先行きが見えない状況に不安は募るばかりですが、この機会にぜひ、歩いてみて
ください。
「森林のたより」編集委員 環境企画課 杉山 昇

8月1日発行

イベント情報

連載

- 山の歳時記(180)
- 山のおじゃまむし(349)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(91)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(89)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政(44)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報 **その他**



木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1728回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	10,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	9,300	—	
		4 m	20~22cm	11,400	—	
			24~28cm	10,300	16,000	
			30cm以上	9,200	16,500	
	6 m	16~18cm	12,300	—		
		3 m	16~18cm	14,000	—	
			20cm以上	12,000	—	
			4 m	16~22cm	15,000	
		24~28cm		12,500	—	
5月19日	ひのき	30cm以上	12,000	140,000		
		6 m	16~18cm	21,000	—	
			—	—	—	
第1307回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	10,000	—	
			24~28cm	9,000	—	
		4 m	30cm以上	9,000	—	
	ひのき	3 m	16~18cm	14,000	—	
			20~22cm	12,000	—	
		4 m	30cm以上	11,000	—	
	6 m	16~20cm	—	—		
		まつ	4 m	24~28cm	8,000	—
			30cm以上	8,000	—	
	6月10日	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—
30cm以上			13,000	—		
5 m		30cm以上	15,000	—		
第1637回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	11,200	—	
			24~28cm	11,000	14,000	
		4 m	30cm以上元	12,000	15,000	
	ひのき	3 m	16~22cm	15,900	22,000	
			24~28cm	12,800	—	
			30cm以上元	14,500	22,000	
		4 m	13cm以下	9,000	—	
			24~28cm	13,200	24,000	
	6月11日	まつ	6 m	18~22cm	21,000	—
				22~28cm梁	6,000	—
4 m			30cm以上元	7,000	—	

木材市場

【商況】

新型コロナウイルスの影響により各大型工場から製品販売不振、在庫過多の情報あり。スギ4m元木良材、中目30cm以上は応札旺盛。スギ並材は3m、4mともに潤沢な在庫を背景に弱気。ヒノキ並材は4m、3mともに受入低調。ヒノキ4m及びスギ4m合板向けは各社在庫過多。製紙向けパルプ材、大手工場は受入制限情報。発電向け未利用材は継続して荷動きが活発。原木在庫は不足傾向。(岐阜)

出材量は、ヒノキ、スギ共横ばい。価格も下げ相場となっている。相変わらずスギ、ヒノキの並材、大径木、欠点材は売りづらい。広葉樹良材は、高値で推移しているが並材は横ばい。製品荷動きが低迷、コロナウイルスの影響による先行き不透明から、全体的に徹底した当用買いで相場は弱い。梅雨シーズンに入ると、原木の材出の悪化、センコウムシなど害虫発生時期にあたり、速やかな出材をお願いします。(飛騨)

全般的に感染症の影響にて並材(16~22cm)は、やや安値で推移。ヒノキ元木、良材2m、3m、4m(高齢材及び枝打材など(特殊材))は旺盛、やや安値で推移。ヒノキ並材3m、4m(16~22cm)は、システム販売の安定供給に伴い横ばいか、やや安値で推移。スギは全般的に品薄、4m元木良材は継続して旺盛。スギ並材は、3m、4m(16~28cm)長良川木協・森の合板への県森連システム販売にて安定供給。ヒノキ・スギ6m材は需要減。(東濃)

製品卸売標準価格 (5月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
		3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集ウ成ド材	柱	3000	105	105	国産5層	60,000	(1,980)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,600)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (5月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	306	米梅	へム(アラスカ産)	292
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

芯去り

木材用語一口メモ

丸太の中心部分(芯)を避けて製材した木材。主に大径材から得られる製材品で狂いや割れの発生が少ない。特に大きな原木からしか挽けない四方柱目の製品が最高級とされている。

